



4回連続企画の第1回目「独歩の森の現状を見る」が開催されました。

日時：10月3日(日) 10:00-11:00

場所：独歩の森(境山野緑地)

参加人数：51名

DATA 独歩の森は江戸時代から続く雑木林でおよそ80年前までは農家の方が薪を作ったり、落ち葉を集めたりして利用していました。その後雑木林としての利用がなかったために今では高木が中心になっています。主な木は、クヌギ(3本)、コナラ(33本)、イヌシデ、アカシデ、ムクノキ、シラカシ、ケヤキなどです。

■ 独歩の森のナラ枯れを見る

第1回は独歩の森のナラ枯れを見るということで普段から独歩の森の保全活動をされている「武蔵野の森を育てる会」の田中さんに緑地内の状況を案内してもらいました。参加者の皆さんはナラ枯れを見に来ているので、緑地に入るとすぐに枯れている木を見つけていました。何で枯れるのでしょうか。ナラ枯れとはいったい……



実際に枯れている木で説明する田中さん。この木ではトラップ(罠)をしかけて虫が木に入る前に捕獲する試みがされています。

ナラ枯れはカシノナガキクイムシという小さい虫がたくさん木に入ることによって木が枯れることだそうです。市では木の状態に応じて虫が入る前にトラップ(罠)で捕えたり、虫が入りそうな部分にビニールを巻いたりして対策しています。結果的にはトラップで捕えられる以上に虫が発生したり、ビニールで保護していない部分から入りこんでしまい枯れてしまったとか。33本あったコナラのうち15本は倒木の危険性から伐採されます。残った木も既に虫が入っていて枯れる可能性が大きいそうです。



虫が入ると、その穴からはフラスと呼ばれるものが出ます。木には小さい穴がたくさん開き、その下にはフラスが溜まっていくのが分かります。

■ コナラの木にとどまらない被害

独歩の森では、3本のクヌギのうちドングリを付けるのは1本のみで、その最後のクヌギにも虫が入り待ったなしの状態だそうです。シラカシでは既に枯れた木もありました。

■ 若い林を見る

独歩の森の隣地では2007年にクヌギ・コナラの苗床を作りました。苗木は使われることがなく育ちすぎたために2015年に一度全部伐採され、今ではその切り株から育った木がもう10mの高さになりました。直径15cm以下の若い木には虫が入らないそうで苗床の木には虫が入っていませんでした。また2019年に全部伐採・再生した二小ゾーンと呼ばれる若い林も見学しました。若返ることによって生き物が豊富になったとも。それが目当ての子どもたちも集まります。

■ Q&Aコーナー

虫の駆除方法、木の管理方法、環境の変化、土壌改善、さまざまな質問がありました。第2回でさらに深めていきましょう。

これからの予定

第2回 10/23 講演会「ナラ枯れについて知る」

第3回 11/13 みんなで情報交換

第4回 11/23 パネルディスカッション

「独歩の森の未来を考える」

西部コミュニティ協議会



武蔵野市境5-6-20

seibu-c@bz04.plala.or.jp

<https://seibu-c.sakura.ne.jp/>